

第3章 防災・防犯分野

第1章 保健・医療・福祉分野	第1節	市民の健康づくりの推進	P46
	第2節	地域福祉の充実	P48
	第3節	高齢者福祉の充実	P50
	第4節	障がい者福祉の充実	P52
	第5節	社会保障の充実	P54
第2章 子育て・教育・文化分野	第1節	結婚・出産・子育て支援の充実	P58
	第2節	学校教育の充実	P60
	第3節	生涯学習の推進	P64
	第4節	青少年の健全育成	P66
	第5節	スポーツ活動の推進	P68
	第6節	文化・芸術活動の推進	P70
	第7節	国際交流の推進	P72
第3章 防災・防犯分野	第1節	消防・防災対策の充実	P76
	第2節	交通安全・防犯の充実	P80
	第3節	消費者対策の充実	P82
第4章 産業・観光・雇用分野	第1節	農林水産業の振興	P86
	第2節	商工業の振興	P90
	第3節	観光の振興	P92
第5章 都市基盤・生活分野	第1節	道路・交通網の充実	P96
	第2節	住環境の整備	P100
	第3節	公園・緑地の整備	P102
	第4節	上・下水道の整備	P104
	第5節	情報化社会の構築	P106
第6章 自然・環境保全分野	第1節	自然環境の保全	P110
	第2節	再生可能エネルギーの利用	P112
	第3節	循環型社会の形成	P114
第7章 参画・協働・行財政分野	第1節	参画・協働の推進	P118
	第2節	地域コミュニティの育成	P120
	第3節	人権尊重・男女共同参画・平和行政の推進	P122
	第4節	行政経営の推進	P126



第1節 消防・防災対策の充実

- 方向66 連携による防災、救急体制を強化する
- 方向81 防災・救急体制を充実させる
- 方向82 中山間地域の消防水利の確保を推進する
- 方向83 消防団組織の充実を図る
- 方向84 消防資機材及び施設を充実する

つながり

安 心

安 心

安 心

安 心



第2節 交通安全・防犯の充実

- 方向51 行政と地域が互いに連動した交通安全対策を推進する
- 方向85 交通事故や犯罪のないまちをつくる

つながり

安 心



第3節 消費者対策の充実

- 方向86 悪質商法・詐欺被害のない賢い消費生活を送れるよう支援する

安 心





第1節 消防・防災対策の充実

現状と課題

近年、東日本大震災など未曾有の大災害が発生しております。本市においても台風や集中豪雨などによる幾多の水害の発生、平成12年には鳥取県西部地震など災害が発生しました。このような大規模災害等に対する初動時の人員不足が課題となっており、安心安全な施策（総合力の向上策）を講じる必要があります。また、中山間地域の消防水利の不足、資機材の老朽化などの問題も解決に向けて取り組む必要があります。

消防団には強い地域保護の意識があり、災害時に適切な活動ができるよう、団員の技術の向上を基本に消防団組織を充実し、消防署と協働による地域住民の安心安全の向上が求められています。

市民の暮らしに必要なガソリン・灯油等の危険物、LPG等の高圧ガスや花火等の火薬類は、市民の生活と隣合せて災害や事故が発生する可能性が高いため、建築同意や防火対象物に対する査察、検査及び設備等の維持管理指導の実施と火災予防の普及啓発に努めることが求められます。

また、高齢者世帯数の増加や、核家族化が進むことにより救急車利用増が予測され、応急手当の実施率のさらなる向上や救急体制の充実が必要となります。

取り組みの方向と主な施策

方向 66 連携による防災・救急体制を強化する

つながり

- 緊急消防援助隊をはじめ近隣市との中海地区消防相互応援協定及びドクターヘリ、鳥取大学医学部附属病院ドクターカーとの協定を継続します。
- 近隣市の医療機関等との救急体制の構築を推進します

方向 81 防災・救急体制を充実させる

安心

- 迅速な情報・伝達網づくり（ブロードバンド事業による告知システム、防災行政無線等）を進めます。
- 自主防災組織の育成推進をします。
- 応急手当講習の開催、口頭指導の実施により救命率の向上を推進します。
- 非常災害に対する情報伝達の説明や広域的防災訓練を実施します。
- 原子力災害に備え、住民避難訓練の実施や広域避難計画の実効性を高めます。
- どじょっこTV、ホームページ、市報等の活用・広報活動による安全意識の高揚に努めます。

- 防火クラブの育成の強化による火災予防の普及を推進します。
- 危険物・高圧ガス施設及び防火対象物施設の査察及び設備等の維持管理指導の実施と火災予防の普及啓発を推進します。

方向
82

中山間地域の消防水利の確保を推進する

安心

- 中山間地域の消防水利の整備を推進します。

方向
83

消防団組織の充実を図る

安心

- 地域消防団との連携による消防・防災体制の強化のための計画策定及び地域防災拠点施設の整備を推進します。
- 消防団員を雇用する事業所が消防団活動を通じて社会に貢献していることを顕彰し、活動への一層の理解と協力を得るため消防団協力事業所⁷の加入促進を図るほか、島根県防災部消防総務課が中心となり県民全体で消防団員を支援する仕組みづくりを推進します。

方向
84

消防資機材及び施設を充実する

安心

- 消防資機材の計画的な更新と分署等の施設整備を推進します。

目標指標

☆印…総合計画アンケート

指標の名称	単 位	現状値		方 向	めざそう値	
☆災害時の避難場所を知っている人の割合	%	56.9	H26			H31
☆災害時の備蓄品、持ち出しものを準備している人の割合	%	35.4	H26			H31
自主防災組織数	組織	35	H26		45	H31
消防団員数	人	720	H26		720	H31
応急手当の実施率	%	47	H26		50	H31

用語
解説

⁷ 消防団協力事業所
市長が消防団活動に協力している事業所等として認め、消防団協力事業所表示証を交付した事業所等

主な事業

- 地域防災計画の整備及び防災センターの有効活用
- 登録者への防災メール配信サービスの検討
- 防災指導者講習会等の開催など普及啓発活動
- 出前講座等の開催など、自主防災組織の結成並びに育成
- 災害時備蓄物資の充実
- 消防機械器具等の計画的な更新
- 耐震性防火水槽の整備、水利難地区の解消
- 常備消防車両の更新
- 消防（常備・非常備）用設備整備
- 消防署施設保守
- 非常備消防施設整備
- 広瀬・伯太・比田消防庁舎整備
- 自主防災組織支援事業
- 消防団体制の構築事業

分野別計画

- 安来市地域防災計画
- 安来市水防計画



消防庁舎



安来スタイル

島根原子力発電所から半径30キロ圏内「緊急時防護措置を準備する地域（UPZ）」に属することから原発立地自治体と同様の安全協定の締結を働きかけています。

ちよんぼし情報⑥

みらいデザインコンクール

言の葉コンクール 入賞作品

言の葉コンクールは「市民が共感できるような、伝えたい風土や地域活動などまちづくりに関する思い」がテーマで、市内外から185点の応募がありました。このうち、一次選考で入選した18点について、市民による人気投票を行い、投票総数212票により1位から3位を決定しました。伝統文化や特産品など安来らしさを表現したもの、笑顔や感謝の言葉など温かな人間関係を方言で表現したものなど、まちづくりへの思いが伝わってきます。

第1位

「どげなかね」 かけ合う心で 町づくり

安来市 山崎 茂 子さん

第2位

わが安来 ほっこりにつこり だんだんね

東京都 金山 征以子さん

第3位

唄い継ぎ 笑顔を咲かす 人と街 みんなで 未来に あらえつぎ!

安来市 井上 富士夫さん

入選

歴史と文化が輝くやすぎ 未来創りは 我らが主役

安来市 井上 富士夫さん

やっぱり すきな きみと住む! やすらぎ 奏てる 安来のまちで

安来市 井上 富士夫さん

古(いにし)えの たらの息吹を 唄い継ぎ 未来に羽ばたけ 夢咲くやすぎ

安来市 井上 千 文さん

笑顔と 唄と だんだんが 輝きにぎわう 元気なやすぎ

安来市 井上 千 文さん

住みよい町より、住みたい町へ、私も共に生きる町

安来市 平井 叔子さん

入選

暖(ぬく)もりが、人呼ぶ、福呼ぶ、活気呼ぶ

安来市 平井 叔子さん

古(いにし)えの想いを、未来に継(つな)ぐ町

安来市 平井 叔子さん

やさしいまち すてきなまち ぎじゅつのまち 住めば豊になるやすぎ

安来市 井塚 武さん

子にも孫にも伝えたい 安来に息づくものづくりの技と心

安来市 辻谷 典久さん

安来市は タケノコ いちご きぬむすめ まだまだあるよ 特産品

安来市 広野 紀子さん

安来やすらぎ、ほっとする

東京都 小野 史さん

ありがとう それは言葉のプレゼント

安国小学校 箕浦 葉月さん

だんだんね 大事にしたい ふるさとの言葉

社日小学校 山坂 稔也さん

明るい笑顔明るいあいさつで 今日も一日がんばれる

社日小学校 門脇 洸飛さん

安来からみんなの笑顔があふれる

社日小学校 鹿納 沙来蘭さん



第2節 交通安全・防犯の充実

現状と課題

近年は地域でボランティア等による見守り活動が行われており、交通事故発生率、交通死亡事故数が減少傾向にあります。しかし、交通弱者、特に高齢者への交通安全対策が課題となっています。

また、多種多様な事件や犯罪が増加しており、安心して暮らせるよう犯罪を未然に防ぐ体制の充実が求められています。

取り組みの方向と主な施策

方向
51

行政と地域が互いに連動した交通安全対策を推進する

つながり



- 広報活動や交通安全運動などにより交通安全への啓発活動を行います。

方向
85

交通事故や犯罪のないまちをつくる

安心



- 通学路の安全確保のため防犯カメラを設置します。
- 自治会の防犯灯設置に対する補助を行います。

目標指標

☆印…総合計画アンケート

指標の名称	単 位	現状値		方 向	めざそう値	
☆住んでいる地域で登下校時の見守り・パトロールや街灯整備等の安全・安心を守る取り組みが行われていると答えた人の割合	%	65.1	H26			H31
防犯カメラ設置数（毎年）	台	58	H27		70	H31
交通死亡事故発生件数	件	1	H26		0	H31

主な事業

- 街頭防犯カメラ設置の推進
- 自治会の防犯灯設置事業への補助
- 交通事故防止の啓発・宣伝
- 交通指導員委嘱
- 交通安全施設整備
- 学校、地域、関係機関等と連携した通学路等交通安全点検の実施

分野別計画

- 安来市交通安全計画



安来スタイル

各地区の交通指導員、通学路の安全確保ボランティアなど地域や関係機関と連携して交通事故をなくします。



第3節 消費者対策の充実

現状と課題

悪質商法による被害に歯止めがかからず、特殊詐欺に関する多くの通報や被害も報告されています。また、悪質商法・特殊詐欺に騙される市民の多くが手口等を知らないため、周知を図る必要があります。

取り組みの方向と主な施策

方向
86

悪質商法・詐欺被害のない賢い消費生活を送れるよう支援する

安心



- 市報や告知放送などのツールを利用した、タイムリーな情報提供をします。
- 島根県の出前講座などを利用します。
- 各年代への消費者啓発の機会をつくれます。
- 関係機関と連携し、見守り・啓発します。
- 高齢者が被害に遭わないよう各関係機関・組織と連携をとり情報共有します。
- 地域見守りネットワークづくりに努めます。
- 安来市消費者教育推進計画の策定を検討します。

目標指標

指標の名称	単 位	現状値	方 向	めざそう値
消費者講座等の実施件数	件	9 H26		20 H31

主な事業

- より良い消費生活のための集い



安来スタイル

県内初で早期設置した安来市消費者行政審議会主導で消費者教育を推進します。

ちよんぼし情報⑦

安来市名誉市民

安来市
名誉市民章

安来市名誉市民は、公共福祉の増進、産業・文化の進展、自治の発展に貢献し、その功績が卓絶で市民の尊敬の対象となる方に贈る称号です。

合併10周年の節目に、市民の代表で構成する選考審議会で審議を重ね、時を経て輝きを失うことのない偉大な功績を遺した5人の方を選定しました。

選定日：平成26年10月4日
※紹介は生年月日順



米原 雲海氏 (本名・米原幸太郎)
(明治2年8月22日生・大正14年3月25日没)

明治2年、安来町新町の漁業木山家に生まれ、16歳で米原家の養子となる。本名は幸太郎で雲海はその号。小学校卒業後、宮大工に弟子入りし建築彫刻を学ぶ。

明治23年に上京し木彫界の巨匠高村光雲の門に入ると、3年のうちに展覧会入賞を果たし、26年に帰郷してからも中央の彫刻展で入賞を重ねる。安来町松源寺山門の仁王像は、この頃に松江の荒川亀斎と共作したもの。

明治28年には東京美術学校助教授に招かれ再び上京するが、制作に専念するため2年で辞職。東京国立博物館に野外展示される「ジェンナー像」の制作では、初めて西洋彫刻の技法「比例コンパス」を用い、木彫界に大きな発展をもたらした。明治30年代にはパリ世界博覧会入賞をはじめ数多の功績をあげ、名声は一段と高まる。一方では、多くの門弟を輩出し、展覧会の審査員を務めるなど後進の育成にも注力した。

明治41年には岡倉天心の知遇を得て日本彫刻会を結成し、伝統的な日本彫刻を基に東洋趣味を表現する作風を確立。「月」「竹取翁」「仙丹」などの代表作はこの頃の作品である。大正期には松江城の松平直政公像、長野市善光寺の仁王像、明治神宮の獅子狛犬などの大作にも取り組んだ。

病のため55歳で永眠。師光雲が「自分の片腕を奪われた」と惜しむ逸材であった。



伊達 源一郎氏
(明治7年3月15日生・昭和36年7月15日没)

明治7年、能義郡井尻村に生まれる。同志社大学政治科を卒業後、明治33年に上京し国民新聞に入社。45年に編集局長となる。

大正4年に国際通信社報道部長、次いで7年に読売新聞主筆に就任。この際、日本全権随員としてパリ平和会議に参加した後、外務省嘱託として省内に情報部を創設。大正9年、東方通信社を設立すると、15年には国際通信社と合併し日本新聞連合を発足させ理事に就任。昭和2年にジュネーブで開かれた国際新聞専門家会議では、日本代表として手腕を発揮する。昭和6年に国民新聞社長、翌年にはジャパンタイムズ社長を歴任し、日本の新聞界に多大な足跡を残した。

戦後、昭和21年に島根新聞社長に迎えられ、28年までの在任中、22年の第1回参議院議員選挙に当選。昭和26年のサンフランシスコ講話会議では、吉田茂首相の要請により全権委員代理として各国記者団の対応にあたった。

一方では青年育成の重要性を説き、大正5年には日本青年団の前身となる中央報徳会青年部を組織。また、井尻村の旧宅を地元の青年に開放し、戦後は公民館として寄贈するなど郷里へも貢献している。

鳥類研究家としても著名であり、世界で収集した1600点以上の鳥類標本は、県立三瓶自然館に所蔵されている。



初代 渡部 お糸氏 (本名・渡部イト)
(明治9年11月6日生・昭和29年3月27日没)

明治9年、安来町に生まれ、幼少の頃から安来節を習い覚える。成長するにつれて天性ともいべき美声に一段と磨きがかかり、お糸が唄う安来節は人々を魅了し、その名前は

巷に知れ渡る。

大正期に入り、各地での催しに出演し、ますますその名声を高めるとともにレコードの吹き込みも行い、安来節を全国に紹介する。

そして、お糸を中心とした安来節一行は東京での一流寄席に出演、あるいは関西方面の寄席界にも進出巡業をし、大盛況をあげるようになった。これにより東京、大阪には安来節専門の舞台が生まれるなど、その唄と踊りは日本の民謡界において大きな地位を確立し、出雲に安来節ありと全国に知らしめた。

また、巡業一座とともに各地を回り、安来節を広めるとともに当時の台湾、朝鮮、満州にも巡業の足を延ばすなど国内外において活躍し、一地方の民謡を格調高い日本を代表する民謡として位置付ける多大な貢献をした。一方、聴衆のアドバイスをとり入れて改良を加え、お糸節ともいわれる今日の正調安来節を生み出した。

安来節保存会においても、初代家元の地位にあって正調安来節の宣伝普及と後継者の指導育成に努めるなど、その一生を安来節に捧げ、今日の隆盛の基盤づくりに努めた。



河井 寛次郎氏
(明治23年8月24日生・昭和41年11月18日没)

明治23年、安来町生まれ。島根県立第一中学校を卒業すると陶芸家を志し、東京高等工業学校に入学。窯業科学に関する基礎を学んだ後、京都市陶磁器試験場の技手を経て独立し、陶芸創作活動への道を歩む。

大正9年、京都五条坂に「鐘深窯」を開き、さらに研鑽を重ね、中国陶磁器等に関する新しい知見を加えて、青磁や辰砂、天目をはじめとする多彩で、しかも高い技術を駆使した作品を次々と発表し、作陶家としての地歩を固めた。

その後、李朝陶磁に見られるような無名の生活陶器に強く心ひかれ、志を共にする仲間と民芸運動を展開し、従来の伝統様式を脱し、技巧を抑えた自然なつくりによって民芸の実践を試み、用と美の調和をはかった独自の陶芸を完成させた。そして、民芸にとらわれない自由な創作に入り、斬新で明るく、変化に富んだ作品を次々と世に送り出した。

この間、数えきれないほどの作品展を開催し、多くの人々に感銘を与えた。特に、昭和12年のパリ万国博覧会、昭和32年のミラノ・トリエンナーレ展ではグランプリを受賞するなど世界的にもその名声を馳せた。

一方、人間の表情を巧みに表した木彫作品など、その多彩な造形は多くの人々を魅了した。また、多くの著書も残している。



櫻内 義雄氏
(明治45年5月8日生・平成15年7月5日没)

明治45年、広瀬町出身で商工大臣、農林大臣、大蔵大臣などを歴任した櫻内幸雄の次男として生まれる。慶応義塾大学経済学部を卒業後、会社員を経て応召。兵役免除後の昭和15年から父幸雄の秘書として政治家の道を歩みだす。

昭和22年の衆議院議員選挙において、東京一区から34歳で初当選。その後、父幸雄の志を継ぎ、郷里島根県から立候補して参議院議員選挙で当選。次ぐ昭和27年の衆議院議員選挙でも島根県から出馬し当選以降、連続18回の当選を果たした。

その間、池田内閣で通商産業大臣として初入閣し、佐藤内閣で通商産業大臣、田中内閣で農林大臣、福田内閣で建設大臣と国土庁長官、鈴木内閣で外務大臣等の要職を歴任したほか、平成2年には三権の長の一席である衆議院議長に就任。

一方、自由民主党の幹事長、政務調査会長、顧問等の重責に就任し、常に国政の中核にあって日本国発展のため尽力した。

さらにはスポーツ、文化、芸術分野においても幅広い要職を歴任し、その振興に寄与した。